

2025 年度事業報告書

特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会

I 事業期間

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

II 事業の成果

2025 年度は、ウクライナ問題に端を発した穀物等の原材料及びエネルギー価格の高騰により様々な商品が値上がりした一年でした。また、労働市場においても初任給のアップ、物価にスライドした賃上げ等、労働コストが急激にアップした 1 年でもありました。当協議会においても慢性的な人材不足による組織強化に問題が発生している状況下にあります。組織改革に誠意努力中です。また財政的な問題解決に向けた会員及び賛助会員の募集関係資料を改定し、募集活動を行っているところです。

NGO/NPO 間の連携促進事業（会員向け事業）については、昨年にも増して、会員メンバーとの情報交換を密にし、会員団体のイベント及び PR について、メールマガジンを 46 回配信することができました。また、X（旧 Twitter）及び Facebook 等の SNS の活用については、昨年以上の回数で配信し、ワン・ワールド・フェスティバル（以下「OWF」という。）関係で 48 回、当協議会関係の配信で 41 回と活発に活動を継続し、特に OWF のアクセス数が 4 倍（20 万回）に跳ね上がり、OWF の集客にも大きく寄与することができました。今後も会員団体との交流を深め、有用な情報を会員間で共有できるネットワークの構築に努めてまいります。

本協議会が事務局機能を担う OWF は、昨年同様「梅田スカイビル」で、大寒波が襲来した極寒の中での開催となりました。しかしながら、悪天候にも関わらず、多くの来場者が訪れ、盛況の中閉幕を迎えることができました。梅田ステラホールで開催された「出展ブース」では 85 団体(90 ブース)が出展し、来場者に SDGs の活動を積極的に紹介していただきました。

また、出展者の活動を来場者にプレゼンができる PR コーナーも有効に活用していただきました。3 階ステラホール・ホワイエでのステージプログラムでは、民族舞踊及び民族音楽の他に、介護現場を支える外国人スタッフの現況について来場者と一緒に考える機会を得ることができました。梅田ステラホール・3 階ロビーでは、外務省フォトコンテスト「あなたの一步が、誰かの希望に」の作品を展示し、相談コーナーとして「外務省 NGO 相談員ブース」「在留外国人向け防災啓発コーナー」を設けました。販売コーナーでは、出展団体の活動を広く知っていただくために、出展団体が扱う商品の販売を実施いたしました。

セミナープログラムは、昨年と同様に梅田スカイビル・タワーウエスト 22 階会議室にて開催しました、2 会議室で計 19 プログラムを実施することができました。外国人の医療の問題、変わりゆく国際協力の在り方等の参加団体から現在抱えている社会問題の中から問題提起をしていただきました。

屋外会場となるワンダースクエアでは、UNHCR の難民テントの展示、「みんなのキッチン」として 14 台のキッチンカーにより世界各国のグルメを提供することができました。また、「みんなのスポーツ」として、メキシコ発祥のルチャリブレを起源とする大阪プロレスの興行も行われ、厳寒の中でのパフォーマンスに来場者から熱い声援が送られました。そのリングの上では、試合の合間にカラオケ EXP02026 が開催され、外国人の方も参加され国際的なカラオケ大会となりました。年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合える「ボッチャ」も盛況でした。また、オンラインにて、SDGs の理念や国際交流・国際協力への理解を深める「第 6 回動画コンテスト」を実施いたしました。

外国にルーツを持つこどもたちの日本語習得の社会問題を受けて始めた事業「こどもプラザ」は、今年で 6 年目を迎え、順調に推移しています。受け入れた中学生 3 名は、幸いにも 3 名とも高校に進学することができました。今後も外国人流入の傾向が続くため、こどもの数も年々増加傾向にあるため、外国にルーツを持つこどもたちの日本語習得及び居場所づくりのサ

ポートは重要性を増しています。このような活動を支える資金の手当てとして、助成金の獲得は最優先事項となりますが、本年度の助成金は残念ながら獲得できませんでした。次年度の助成金獲得に注力し、大阪市教育委員会事務局、区役所及び校長会、小学校等との連携を密にし、こどもたちに寄り添った支援を継続して参ります。

Ⅲ 事業の実施状況

1. 特定非営利活動に係る事業

2. 収入 11,513,107 円 支出 14,943,438 円

(1) NGO/NPO 間の連携促進事業（会員向け事業）（2026 年 3 月 31 日現在）

収入 3,648,248 円 支出 5,721,295 円

①会員サービスの充実

内 容	会員間の情報交換、経験の共有を図るとともに、会員それぞれが有する専門性や経験情報・人材を活かせるように連携や協働の促進に努めました。 ①会員名簿の発行 発行部数 50 部 配布先 会員団体 ②講演会の開催 タイトル：「ミャンマーの現状～草の根の支援活動から」 講師 一般財団法人日本ビルマ救援センター 代表理事 中尾恵子氏 開催日時：令和 7 年 6 月 19 日（木）15:00～16:45 講演・質疑応答 ※会員及び会員以外の方々も含めて会場および ZOOM にて視聴しました。
実 施 場 所	当法人事務所
実 施 日 時	令和 7 年 6 月 19 日（木）15:00～16:45
事 業 の 対 象 者	正会員 34 団体、会員以外の団体も参加

②会員への情報提供と会員活動への広報協力

内 容	①会員への情報発信 ・会員からの問い合わせについて、各種助成金情報や会員団体による主催事業情報、NPO 支援に関する情報発信をホームページにアップし、昨年引き続き SNS 等にて積極的に情報発信を行いました。 ・本年度はメールマガジンを 26 回配信することができました。昨年同様に情報の配信を継続することで、会員間の情報の共有が可能となり、また会員以外の団体等に会員の活動内容を配信することで、有効な情報拡散ができましたことを報告させていただきます。 ②国際交流等のイベントの後援及び活動の支援 ・会員団体の国際交流イベントの活動の支援として、メールマガジン、SNS 等で広報活動を実施しました。 ③ 自主イベント時に会員情報の配布協力及び SNS 等を使用した情報配信の協力 ・会員団体情報として、メールマガジン及び SNS にて積極的な情報配信を行いました。
実 施 場 所	当法人事務所
実 施 日 時	随時
事 業 の 対 象 者	正会員およびその他の団体、ボランティア等

(2) NGO/NPO と多分野の団体、他機関との連携促進事業

収入 7,864,859 円 支出 7,866,056 円

①第33回ワン・ワールド・フェスティバル

内 容	2026年2月7日、8日の両日、「梅田スカイビル」にて、「共に生きる世界を〜今こそ思う みんなのいのち〜」をテーマに掲げ、第33回OWFを開催いたしました。 会場のメインは、NPO/NGO等の85団体(90ブース)に出展を頂いた「展示ブース」となります。ここでは、SDGs17項目の達成に向けた各団体の活動を5つのグループに分けて紹介し、これらの取り組みを「見て、聞いて、理解する」ことができるため、学生や若者にとって活きたSDGsを学ぶことができる有用なプログラムとなっています。出展団体の活動をより詳細に知っていただこうと、団体の紹介をするPRコーナーを設け、参加者が気軽に質問等ができるため、来場者と出展団体との交流の場としての機能を果たすようになりました。 3階ステラホール・ホワイエでのステージプログラムでは、民族舞踊及び民族音楽の他に、様々なテーマでセミナー及びセッション等を開催することができました。特に厳寒の中での開催となりましたが、事故なく盛況の中閉幕を迎えることができました。 また、2月7日(土)の夕方には、昨年同様に「キャンドルナイト」を開催いたしました。世界中で起こっている紛争による難民及び命を落とされた人々、また災害などで亡くなられた方の鎮魂と平和を願うために実施しました。 今回のOWFの開催に当たり、参加して頂いた多くの団体の皆様のほか、場所をお借りし様々なご協力をいただきました積水ハウス梅田オペレーション株式会社様、そして外務省、総務省、文部科学省、経済産業省、環境省、関西領事団、大阪府、大阪市、堺市をはじめとする省庁・自治体並びに教育委員会、各種団体、学校、企業等の皆様方には、運営協力、ご後援、ご協賛などの形で多大なご支援、ご協力をいただきました。また、事前準備や当日のボランティアとして多くの皆様にご協力を頂きました。
実 施 場 所	梅田スカイビル・梅田ステラホール、ワンダースクエア等
実 施 日 時	●会場(リアル)開催 : 2026年2月7日(土)～2月8日(日) ●オンライン開催 : 2026年2月1日(日)～2月28日(土)
事 業 の 対 象 者	国際交流・協力活動に積極的に参加している市民及び興味を持つ市民 ●会場開催入場者 : 22,000人 ●オンライン開催視聴者数 : 32,039人

(3) 国際交流・国際協力・市民活動に関する情報収集と提供事業

収入 0 円 支出 0 円

NGO/NPO に関する情報の収集・提供事業

内 容	関係機関からの情報を整理し、ホームページ上で「新着情報」として取り上げ、タイムリーに配信することを継続しています。また、PICK UP 情報として、イベントの情報を詳しく紹介するコーナーも設け、情報発信の充実を図りました。各団体からの掲載の依頼なども新着情報と併せてメールマガジンに掲載し、約867団体に配信を行いました。
実 施 場 所	国内外全域
実 施 日 時	2025年4月1日～2026年3月31日
事 業 の 対 象 者	当協議会会員及び国際交流・協力活動に対する意識を持つ市民

(4) 開発教育・市民意識啓発と活動への参加促進事業

①国際理解（世界で起きている社会問題等）の教育の促進

内 容	OWF の会場で開催される SDGs の活動を「見て、聞いて、理解する」ことができる出展ブースを、教育の場とし活用し、中学生、高校生、大学生の学び場としての役割を果たすように努めてきました。今回も前回に引き続き、奈良・育英西中学校の生徒約 80 名が会場を訪れ、生徒各自が出展ブースを巡り生徒一人ひとりの目線（考え方）で、自分に合った課題を選び、出展ブースの団体にヒアリングを行い、今起きている社会問題等について自分の考えをまとめる、という学習体験をしていただきました。また、多くの高校生・大学生等若者が訪れ、SDGs の活動について学んでいただいています。
実 施 場 所	梅田スカイビル・梅田ステラホール（出展会場）
実 施 日 時	2026 年 2 月 7 日 10:00～17:00、8 日 10:00～16:30
事 業 の 対 象 者	中学生、高校生、大学生、若い世代の方々

②人材育成事業

内 容	学校法人エール学園の推薦により、2 名の留学生を受入れ、国際交流・協力を目的とした「ワン・ワールド・フェスティバル」の開催に伴う、企画、折衝、プログラムの制作の補助、イベント参加者の対応等、イベント開催の運営の実践を学ぶインターンシップを実施しました。
実 施 場 所	当法人事務所
実 施 日 時	2025 年 10 月 1 日～2026 年 2 月 27 日
事 業 の 対 象 者	学校法人エール学園 留学生 2 名（インドネシアの留学生 1 名、ベトナムの留学生 1 名）

(5) NGO／NPO の基盤強化事業

収入 0 円 支出 1,356,087 円

①多文化共生事業

「こどもプラザ」

内 容	【事業の概況】 2025 年度の「こどもプラザ」の事業は、大阪への外国人労働者が前年度比 13.2%と急増したことに伴い、当こどもプラザへも外国にルーツがあるこどもたちの申込が急増しました。こどもの受入れは、従来毎回 7～8 人で推移していましたが、2025 年 4 月から 15 名程度に増加しましたが、引き続き申し込みが殺到し約 6 名程度のウェイティングが発生し、その後も継続して問い合わせがある状況でした。（現在の在籍：ベトナム 4 名、ネパール 1 名、中国 7 名） 現在、中学生が 4 名在籍し、3 名が大阪市内の高校に合格しています。（上宮高校 1 名、あべの翔学高校 2 名が合格）、残りの 1 名は、夜間高校への進学が決まりました。 このように申込者が多く、また通常 10 名が限度でしたが、それ以上のこどもを預かっていますので、運営費用が増加しているのが現況です。2025 年度は、助成金の申込を 5 団体に対して行いましたが、残念ながらすべて落選となってしまいました。 今後の対応として、預かるこどもの数は小学中学生を中心に 10 名程度に固定し、高校生についてはオブザーバーとして受入、自身の経験を活かし、小学生の精神的なサポート及びボランティアの補助とした役割を担っていただくような方法に変更する予定です。 こどもプラザの運営資金として、大阪市、民間団体等の助成金を獲得することが最優先となりますので、順次対応する予定にしています。 また、大阪市教育委員会事務局、区役所及び校長会、小学校等との連携を密にし、確かな情報を得ながらこどもたちの支援を継続して参りたいと考えています。今後は、民間からの助成金を募り、中学生の受入れも継続して対
-----	--

	応できるようにいたします。 【事業の成果】 【令和7年度事業実施の成果】 1) 事業期間 2025年4月1日～2026年3月31日 2) 実施回数 ①こどもの日本語習得実施回数 47回 ②保護者の日本語習得実施回数 47回 3) 参加者数 ①こどもの延べ参加人数 530人 ②保護者（主に母親）の延べ参加人数 266人 ③ボランティア指導員延べ人数 433人 ※ボランティアを募るのが難しく、公的な媒体及びチラシ、HP等で告知をしていますが、人数確保に苦労している状況が続いています。
実 施 場 所	当法人事務所
実 施 日 時	2025年4月1日～2026年3月31日 毎週水曜日 17時～19時
事 業 の 対 象 者	大阪市在住の外国にルーツのあるこどもたち（小中学生が対象）、その保護者（主に母親）

（6）調査研究・提言事業

収入 0円 支出 0円

①審議会、委員会への参加

内 容	在留外国人の増加に伴い、日本での法律の問題、生活の困窮及び生活するうえでの問題が発生しています。このような問題解決の術を知らない在留外国人を対象に、2025年7月12日（土）、2026年1月17日（土）の2回、「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議（事務局＝大阪国際交流センター）が主催する「1日インフォメーションサービス」を開催しました。この相談会は、無料で相談できるもので、ワンストップで相談できると大変好評なイベントでもあります。当協議会は、連絡会議のメンバー団体として参加しています。 1) 2日間の相談者実績合計：144組（187名） 2) 主な相談内容：出入国・在留関係 83件、法律関係 34件、労働関係 37件、税金関係 18件となっています。
実 施 場 所	大阪国際交流センター2階
実 施 日 時	2025年7月12日（土）13:00～17:00、 2026年1月17日（土）13:00～17:00
事 業 の 対 象 者	在阪外国人、当協議会に関係する海外にルーツを持つ人々、行政他

IV 社員総会の開催状況

2025年度通常総会

- （日 時） 2025年6月19日（木）14時00分～15時00分
- （場 所） 関西国際交流団体協議会杭全事務所 会議室
（大阪市東住吉区杭全1丁目15-18）
- （社員総数） 34団体
- （出席者数） 34団体（うち委任状出席者23団体）
- （内 容） 第1号議案 2024年度（令和6年度）事業報告並びに決算（案）
第2号議案 2025年度（令和7年度）事業計画並びに予算（案）
第3号議案 定款の改定（案）
第4号議案 役員の改選（案）

2025 年度臨時総会

(日 時) 2025 年 11 月 28 日 (金) 14 時 00 分～14 時 10 分
(場 所) 関西国際交流団体協議会杭全事務所 会議室
(大阪市東住吉区杭全 1 丁目 15-18)
(社員総数) 34 団体
(出席者数) 30 団体 (書面表決 30 団体)
(内 容) 第 1 号議案 正会員の入会金及び賛助会員の年会費の改定について

V 理事会その他の役員会の開催状況

第 77 回理事会

(日 時) 2025 年 6 月 5 日 (木) 10 時 00 分～12 時 00 分
(場 所) 関西国際交流団体協議会杭全事務所 会議室
(大阪市東住吉区杭全 1 丁目 15-18)
(理事総数) 13 名
(出席者数) 9 名 (うち委任状出席者 4 名)
(内 容) 第 1 号議案 2024 年度 (令和 6 年度) 事業報告・活動計算書 (案)
第 2 号議案 2025 年 (令和 7 年度) 事業計画・活動予算書 (案)
第 3 号議案 定款の改定 (案)
第 4 号議案 理事の改選 (案)
第 5 号議案 令和 7 年度通常総会 (案)
第 6 号議案 2025 年度 (令和 7 年度) 年間スケジュール (案)

第 78 回理事会

(日 時) 2025 年 6 月 19 日 (木) 15 時 00 分～15 時 15 分
(場 所) 関西国際交流団体協議会杭全事務所 会議室
(大阪市東住吉区杭全 1 丁目 15-18)
(理事総数) 12 名
(出席者数) 12 名 (うち委任状出席者 4 名)
(内 容) 第 1 号議案 理事長の選任
第 2 号議案 副理事長の選任

第 79 回理事会

(日 時) 2025 年 9 月 26 日 (金) 14 時 00 分～16 時 00 分
(場 所) 関西国際交流団体協議会杭全事務所 会議室
(大阪市東住吉区杭全 1 丁目 15-18)
(理事総数) 12 名
(出席者数) 7 名 (うち委任状出席者 5 名)
(内 容) 第 1 号議案 賛助会員の年会費の改定について (案)

第 80 回理事会

(日 時) 2026 年 3 月 27 日 (金) 10 時 00 分～12 時 00 分
(場 所) 関西国際交流団体協議会杭全事務所 会議室
(大阪市東住吉区杭全 1 丁目 15-18)
(理事総数) 12 名
(出席者数) 9 名 (うち委任状出席者 3 名)
(内 容) 第 1 号議案 2025 年度中間決算の報告について
第 2 号議案 2026 年度 (令和 8 年度) 予算 (案) の承認について
第 3 号議案 会員規定の改定について
第 4 号議案 賛助会員規定の改定について

以上